

奥尻町のあゆみ

明治のできごと

西暦	年号	奥尻町のできごと
1868	明治元	奥尻島が永住人11戸、男25人、女21人の計46人であった。
1869	明治2	7月、稲穂に鎮守鷗崎神社建立。幌内に薬師神社建立。8月15日、後志国奥尻郡が置かれ、釣懸・赤石・薬師・青苗の4ヶ村を設置。本郡及び久遠郡が福岡藩の支配地となる。福岡藩が釣懸村弁天社に澳津島毘売命を勧請し、社名を「澳津神社」と改称。9月、四等医官柏倉忠肅がヲコシリ詰とされた。(赴任せず)。
1870	明治3	8月、開拓使が流罪人に対する給米、漁業手当、非常備蓄米などを配給。10月、奥尻島が流罪人場所と決定。12月、准流法の発布によって流罪人場所が中止となり、流罪人10人が赦免。
1871	明治4	5月22日、測量艦春日が釣懸村に入港。8月、福岡藩の支配が廃止。
1872	明治5	2月28日、奥尻島が開拓使の所轄となる。5月、官立病院が釣懸村に置かれた。9月、函館支庁遠郡奥尻出張所設置。戸長に竹内甚蔵が就任。
1875	明治8	8月、奥尻出張所が廃止されて勤番所が設けられ、久遠出張所の管轄となる。この年、羅卒宮内敦信が出張所で寺子屋式教育所を開設。
1876	明治9	4月18日、戸長廃止に伴い、竹内甚蔵が後志国第17区副総代に就任。5月、勤番所が分署と改称。9月8日、奥尻郡が第8大区4小区となる。
1877	明治10	2月、桧山郡五勝手村土族の佐々木小六が、字岩生山の硫黄試掘を許可される。4月、分署が江差分署に統合。
1878	明治11	6月19日、竹内甚蔵が8大区4小区副戸長となる。6月、開拓使五等属山田守峻・小原譲太郎らが奥尻島の調査に来島。
1879	明治12	7月15日、釣懸・赤石・薬師・青苗の4ヶ村戸長役場が設置される。久遠・奥尻・太櫓・瀬棚4郡役所が久遠に設けられる。この年、真宗大谷派順行寺が茶津に建立。
1880	明治13	7月30日、英国支那艦隊旗艦「アイロン・デューク号」が青苗沖で座礁。
1882	明治15	6月、美の歌神社(太田山分社)が建立。12月5日、奥尻小学校の開校式挙行。
1884	明治17	5月、久遠警察署奥尻分署を設置。10月27日、戸長の竹内甚蔵が死去。12月、久遠・奥尻・太櫓・瀬棚4郡長として林顕三が就任。
1885	明治18	5月、禁酒規約が定められる。7月、久遠・奥尻・太櫓・瀬棚4郡共同儲蓄米申合規約が定められる。この年、戸長に太田広域が任じられる。
1886	明治19	1月2日、奥尻郵便局が開局。10月21～25日、林郡長が民情視察に来島。11月、時任為基函館支庁長より新道開拓費として300円が贈られた。この年、赤石村で須田三之助が水田の試作にあたる。
1887	明治20	1月15日、本島～久遠間の郵便物輸送が船で開始。11月、中央山道開拓費の寄付を村民が道庁長官に願い出る。この年、宇苗長蔵がワサビ谷地に水田の試作にあたる。
1888	明治21	郵便物輸送に空知丸就航。

1889	明治22	3月22日、稲穂燈台が起工。3月、奥尻島の鹿の禁猟命令が出される。北海道禁酒会奥尻部会が設けられる。
1890	明治23	3月24日、奥尻小学校青苗分校設置。10月3日、奥尻小学校茶津分教室設置。11月、戸長の太田広域が辞任。12月、戸長に大高弘が就任。久遠外3郡長の林顕三が増毛外郡長として転出。
1891	明治24	8月、市来政胤が檜山外5郡長となる。9月18日、戸長に宗像建輔が就任。11月、青苗分校に補習科2学年併設。11月30日、稲穂岬燈台竣工(12月1日から点灯開始)。
1892	明治25	2月1日、郡書記大場宗明が郡長不在中の代理となる。6月、赤石村に第四奥尻小学校設置。7月1日、函館・江差・久遠・瀬棚・奥尻間に通運便開始。12月28日、奥尻小学校菰澗分教場設置。
1893	明治26	戸長に工藤克己が就任。
1894	明治27	9月27日、奥尻小学校青苗分校を第二奥尻小学校と改称。12月17日、奥尻小学校菰澗分教場が第五奥尻小学校と改称。
1896	明治29	5月11日、第二奥尻小学校に補習科3学年併置。6月5日、第五奥尻小学校校舎が新築落成。
1897	明治30	4月1日、桧山営林区署奥尻林務駐在所が釣懸村に置かれる。10月21日、大谷派説教所開設。11月、桧山支庁の管轄下となる。この年、戸長に諏訪武之助が就任。
1899	明治32	4月1日、江差区裁判所奥尻出張所が釣懸村に開所。4月23日、曹洞宗説教所(耕養寺)の開設許可。8月、茶津分教室が第三奥尻小学校と改称。11月、奥尻小学校が釣石尋常小学校と改称。
1900	明治33	12月28日、東風泊より久遠郡平田内に海底電線が敷設。
1901	明治34	6月5日、第二奥尻小学校が青苗尋常小学校、第三奥尻小学校が茶津尋常小学校、第五奥尻小学校が菰澗尋常小学校と改称。10月、補助定期航路が開設され、これを日本郵船株式会社が請け負う。11月、青苗尋常小学校校舎が改築。この年、千畳地区に16戸が入植。
1902	明治35	2月、戸長に大住鶴次が就任。10月27日、曹洞宗青苗説教所が福田山耕養寺と公称。12月3日、岩内汽船株式会社所有の北運丸が、稲穂燈台沖で火災事故。
1903	明治36	1月25日、薬師教育所設置。
1904	明治37	10月27日、戸長役場が失火により全焼。11月、青苗郵便物受取所設置。
1905	明治38	1月29日、後志丸が持田岬沖で浸水し、球島海岸浅瀬に乗り上げる。5月3日、帆船慶寿丸と汽船北雄丸が稲穂岬沖で衝突事故。石川県の和船神徳丸が美の歌沿岸で難破事故。
1906	明治39	3月31日、奥尻分署が奥尻巡查部長派出所となる。4月1日、北海道2級町村制施行され、戸長役場を奥尻村役場と改称。初代村長に大住鶴次が就任。この年、青苗に巡查派出所が置かれる。青苗郵便物受取所が青苗郵便局と改称。
1907	明治40	4月1日、水産組合北海道連合会奥尻水産組合が釣懸に設置され、水産物検査事務開始。8月、千畳に鎮守明神社建立。この年、茶津公会設立(禿智会長、会員40人)

1908	明治41	1月、奥尻青年会設立。11月20日、幌内川支流白水川流域で、早瀬忠太郎ら硫黄礦床の広がりを確認。
1909	明治42	2月、茶津尋常小学校で失火。9月15日、奥尻公友会が茶津に設立。11月17日、奥尻漁業組合設立。この年、硫黄礦の試掘に着手。
1910	明治43	1月4日、青苗青年会結成。3月30日、村長に大瀬直次郎が就任(歴代2代目)。6月2日、奥尻漁業組合設立認可。9月、地先水面専用漁業権許可申請。
1911	明治44	1月、早瀬忠太郎が硫黄礦採掘を本格的に開始。3月1日、澳津合資鮑漁舎設立(資本金650円)。4月4日、茶津尋常小学校校舎が新築落成。11月23日、青苗尋常小学校が2教室増築。